

美馬市立 木屋平小学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- 基礎的基本的な学力の定着を図り、自主主体的に学習に取り組む児童を育成する。
- 学ぶ喜びや学ぶ楽しさを感じる「こやだいラーニング」の確立(少人数学級指導)

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 小野寺靖志
- 委員 校長 総括 香川 充
教務・研修・人権教育主事 小野寺靖志

校長

香川 充

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 計算の基礎学力は定着している。既習内容のプリントや体験学習をすることで、知識の定着も図りつつある。	①漢字・計算等の基礎的基本的な知識技能を確実に身につけ、生活に活用することができる。 ②文章を読み、内容を正確に読み取ることができる。	①単元末テストで全員が8割以上の正答を達成できるようにする。	②朝のチャレンジタイムで漢字・計算・読解力等の復習を可能な週は、4回実施する	①日記や作文等で、しっかり既習漢字を使っていたときは、シールや判等で賞賛した。 ②朝のチャレンジタイムを活用し、漢字・計算・読解力等の復習を週3~4回行った。	①ほとんどの単元末テストで、全員が8割以上の正答を達成することができた。朝のチャレンジタイムでは、漢字・計算・読解力等の復習を、意欲的に取り組むことができた。
課題 学習した漢字を、生活の中で活用することに課題がある。算数の単位を変換する力も十分でない。	具体的方策(教員の取組) ①日記や作文の中で、既習漢字は必ず使うよう指導する。 ②朝のチャレンジタイムを活用し、一人一人に応じた漢字、計算・図形・文章問題等のプリントを継続的に行わせる。	取組指標 ①既習漢字が使えていたらシール等で賞賛する。 ②朝のチャレンジタイムで漢字・計算・読解力等の復習を週3回実施する。		評価 B	次年度における改善事項 単元末テストでは、高い割合の正答ができて、しばらく期間をおいてプリント等を行うと、正答の割合が大幅に下がる場合がある。学力の定着のため、繰り返し復習を行う必要がある。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 全校児童の前で発表する機会が多く、相手を意識して話すようになってきた。あいさつやお礼の言葉を手紙に書き、伝えることができる。	①自分の考えを筋道を立てて、分かりやすく話したり、文章を書いたりすることができる。 ②図や表などを活用したりしながら、自分の考えや意見を説明することができる。	①すべての児童が、自分の意見を理由を明確にして分かりやすく言えるようになる。		①行事や体験活動等を行ったときは毎回感想やお礼の手紙等を書き、発表し合った。小学生新聞や他の新聞記事等を興味深く読んでいた。 ②各教科や集会活動等で、自分の考えを筋道立てて発表した。	①すべての児童が、自分の意見を図や表を用いたりしながら、理由を明確にして話すことができた。質問に対しても答えられる内容に対しては、はっきりと答えることができた。
課題 自分の思いや考えを、筋道を立てて分かりやすく話すことに課題がある。	具体的方策(教員の取組) ①各教科、特別活動等で自分の意見を発表する場面を意図的に設定する。 ②調べ活動などを行い、内容をまとめたり、検討したり、発表したりする活動を増やす。	取組指標 ①行事の感想、新聞などを掲示して多様な表現にふれさせる。 ②自分の考えを筋道立てて発表する場面を週1回以上とする。		評価 B	次年度における改善事項 説明するための準備の時間を取った場合は、自分の意見を筋道立てて説明することができた。今後は、自分の考えを筋道立てて発表する場面を増やし、準備の時間を特別に取らなくても分かりやすく説明したり、質問に答えたりできるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学習に対する興味・関心が高く、すすんで学習に取り組むことができる。	①課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じることができ、自信をもつことができる。 ②学んだことを生活に生かしたり、さらに詳しく調べようとしてすることができる。	①学習アンケートを行い、意欲的によくがんばったと答える児童を100パーセントにする。		①児童の意欲的に学習できたことや、すすんで生活に生かしたりしたことなどを、教師が紹介したり、友達のがんばっていたことを児童が見つけ、帰りの会等で発表することができた。 ②自主勉強ノート等を用い、自主的に学習や調べ活動を行った。	①学習アンケートでは、100パーセントの児童が意欲的によくがんばったと答えた。自主勉強ノートの活用の仕方に次第に慣れ、活用することができた。しかし、学んだことを生活等に積極的に十分活用したとまでは言えない。
課題 学んだことを積極的に活用しようとして、さらに詳しく調べようとする意欲が十分でない。	具体的方策(教員の取組) ①自主勉強ノートを活用させたり、ふり返りカードで自己評価させたりする。 ②地域の良さを感じたり、理解を深めたりする体験活動を行う。	取組指標 ①意欲的に学習できたことやすすんで生活に生かしたりしたことなどを、帰りの会などで紹介し、賞賛する。		評価 B	次年度における改善事項 積極的に学習に取り組んだり、調べ活動等を行ったりすることはできるようになってきたが、学んだことを生活に積極的に活用することに課題が残っている。活用できる場面の例を多く示すなどし、積極的に活用できるよう支援する。

平成30年度 学力向上ロードマップ

